

施策・基本事業評価表

優先度：成果＝中。財源＝中。●上下水道課

番号	施策名	施策の対象	施策のねらい	区分	施策の成果指標(単位)	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
1-1	安全な水道水の安定供給	給水区域内の住民	安価で安全な水道水を安定供給することで、多くの市民が利用している。	成果	上水道普及率(%)	73.5	73.8	75.1	76.1	76.4	77.1	77.5	75.0	77.2	80.0	横ばい	前年に比べ1.3ポイント減少した。これは、給水区域内の未利用者の人口増が利用者の人口増を上回ったものである。要因として、配水管の布設状況により、水道の使用が困難な地域があるためと考えられる。	今後、老朽管の更新工事と併せ、管網整備工事を効率的に実施することにより、未給水地区の解消を図っていく。

番号	基本事業名称	基本事業の対象	基本事業のねらい	区分	基本事業の成果指標(単位)	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
01	管網の整備	給水区域内の住民	管網が整備され、水圧不足の解消や、水量の確保ができています。また新規給水加入戸数が増えている。	成果	新規加入の戸数(戸)	37	50	90	107	129	141	155	130	245	200	順調	アパート及び開発等による新築家屋の増加に伴い、新規加入戸数は増加している。	道路整備計画、都市計画等に併せ、人口増加が想定される未給水地区へ、計画的に管網整備を行っていく。
02	経営の安定化	水道事業会計	効率的な経営をすることで、浄水・給水コストが抑制されている。	成果	有収率(%) ※給水量全体に占める有収水量	91.4	90.8	91.1	90.9	89.8	89.6	90.4	90.0	90.4	90.0	目標達成	前年と同じ目標値に達している。これは、漏水事故等へ適切に対応してきた結果と考える。	漏水現場においては、探知器具等を活用することにより漏水箇所を早期発見し迅速な対応に努める。また、老朽管の更新工事により自然漏水の改善に努める。
				成果	給水原価(円/1m <sup>3</sup> )	154.8	144.1	131.3	132.3	129.2	137.0	134.6	155.0	134.2	150.0	目標達成	昨年度より0.4円/m <sup>3</sup> の減となり目標値を達成している。これは、施設の管理、経営の効率化に努めてきたことによるものと考えられる。	今後、電気料金の値上げ等が懸念され、経常経費の増加が想定されるが、更なる効率化など経営努力に努め、供給単価を上回らないよう努め
03	浄水・配水施設の維持管理	水道施設	施設が適切に維持管理され、故障や事故を防ぎ安定した給水がされている。	成果	浄水・配水施設の維持管理上トラブル数(件)	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	目標達成	施設の維持管理を適切に行ったことにより、トラブルの発生を未然に防ぐことができた。また、自然現象による突発的な事故も発生しなかった。	今後も適切な維持管理により、トラブルの発生を未然に防ぐ努力を怠らない。また、トラブル発生時は、迅速的確に対応し被害を最小限に止めるよう努める。
				成果	水質基準適合率(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	目標達成
04	水資源の有効利用	市民	市民や事業所等が水資源の大切さを理解し、有効に水が使われている。	成果	節水活動をしている市民割合(%)	74.7	74.2	74.9	74.8	74.6	71.6	77.1	▲	75.9	▲	目標達成	目標値には達しているものの、昨年に比べ1.2ポイント減少している。問27-②「蛇口をこまめに止める等の節水」については、70%弱の方が実施しているが、問27-③「風呂の残り湯を洗濯や散水に使用」については、35%弱の数値となり、再利用の意識が薄いと思われる。	水資源の大切さや節水の重要性を認識して頂くため、ホームページや広報等を活用し、積極的な啓発活動を行っていく。
				代替	一人1日平均給水量(ℓ)	274	277	277	271	276	279	276	280	283	270	横ばい	市民アンケートの節水意識と連動するように単位給水量は増加し、目標値を達成できない結果となった。	節水、水の再利用等、節水意識の向上のため、積極的な啓発活動を行っていく。